
エデン～創造と破壊～

近山 流

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エデン〜創造と破壊〜

【Nコード】

N1143BA

【作者名】

近山 流

【あらすじ】

世界線の移動によってパラレルワールドに飛ばされてしまった少年。
彼はその世界にどのように関わっていくのか……

ジャンルは主人公最強ハーレムと、王道ですが、私が1番好きなジャンルだったのでチャレンジしてみました。

勢いで書きはじめてしまった小説で駄文ですが、がんばっていくので、是非アドバイスお願いします。

設定など（前書き）

まずは、設定です。

設定など

主人公

リヨウ・エンドウ（15）

大規模な世界線の移動によりパラレルワールドに飛ばされてしまった少年。

能力

創造と破壊

具体的な内容は本文中で

世界設定

科学ではなく魔術が発達した世界で、今だほとんどの国が民主制ではなく王制となっている。

魔法について

火・水・雷・土の基本属性に光・闇の上級属性、そして、氷・炎などの派生属性などがある。

属性の中にも下位魔法、中位魔法、上位魔法、特位魔法がある。

光・闇の上級属性は基本属性と違いランクが一つずつ上になっていて、上級属性の下位魔法は基本属性の中位魔法にあたる。

設定など（後書き）

不定期更新ですが、頑張っていきたいと思います。

パラレルワールドへ（前書き）

まず第1話です。

パラレルワールドへ

その日、この世界から遠藤亮という存在が消えた……

「ここはどこだ？」

リヨウは周囲を見渡す。

そこはみられない森だった。

彼はさつきまで家への帰路を歩いていたはずだ。

しかし全く検討がつかない状況に立たされたにもかかわらず、彼の精神はいたって普通だった。

これは、彼の適応能力が凄いとということではない。彼はまだ完全にはこの状況を理解できていないのだ。

「とりあえず情報収集だな、移動しよう」

その時だった。彼は生まれてはじめて、命を脅かすほどの脅威を感じた。

パラレルワールドへ（後書き）

初めて小説を書いてみましたがいかがだったでしょうか？

是非感想お願いします。

脅威

脅威の正体は体長2メートルをゆうに超える巨体を持ち、その巨体に見合うほどの大きさの強靱な爪を持つ熊だった。

リヨウは生まれてはじめて心の底から恐怖した。

彼は今まで日本という平和な世界で命の危険などとは無縁な生活を送っていたのだ。

少なからず自分を守るすべを知っているとはいえ、目の前の脅威を排除できるほどのものではないし、その前に恐怖で動くことができなかった。

「せめて何か武器があれば…」

その時彼の頭によぎったのは、彼がよく遊んでいるアクションゲームで愛用している太刀だった。

そしてそのイメージは彼の中でしだいにより強固な物になっていった。

熊がその腕を大きく振りかぶったその瞬間、彼の能力は開花した。

脅威（後書き）

2話読んでみた感想は……短い？

こんな短かったっけ……

これからはどんどん長くしていくつもりです。

感想お願いします。

開花（前書き）

今回はかなり頑張った。

開花

彼の目の前には、熊に攻撃される直前まで頭に思い浮かべていた太刀が出現していた。

彼は一瞬驚いたものの、目の前の敵を倒すという本能が、理性を吹き飛ばした。

振りかぶられた熊の腕を太刀で切り上げる。

熊の腕からは決して少なくない量の血が流れているが、気にしている様子はない。

しかし、突然の獲物の反撃により、熊の動きが一瞬とまった。

リョウは立ち上がり、己の限界を超える速さで切りつける。

その太刀筋は決して良いものではなかった。

小学生が行うチャンバラのように、型なんてものは全くない。

ただ、チャンバラと決定的に違うことがある…それは、純粋な殺意、己の命を脅かすものを排除しようとする明確な殺意だ。

しかし、致命傷を与えることはできず、熊は体制を立て直してしま
った。

所詮は非力な人間だ。熊に腕力で叶うはずもない。
たった一撃で太刀は吹き飛ばされ、リョウも弾き飛ばされた。

「ぐはあ」

5メートルほど吹っ飛ばされ、口から空気と一緒に血が吐き出され
た。

ここで死ぬのか？

こんな訳の分からない場所で、誰にも知られずに？

そんなの嫌だ。

まだ俺は死にたくない。

やりたい事がいっぱいあるんだ。

彼の思考はそこまでいったところで急激に冷やされていった。

彼の中に眠っていたあふれださんばかりの膨大な力がついに発動し
た。

その力は彼の中から溢れだし、周囲にも影響を与えている。

彼を中心に風が吹き出されている。

熊は野生の本能で危険を察知した。

だが、もう遅い……………

彼は目の前の脅威に向けて短く言い放つ。

「死ね」

その瞬間脅威は跡形もなく砕けちり消滅した。

そして彼は意識を失った。

開花（後書き）

感想よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1143ba/>

エデン～創造と破壊～

2012年1月3日01時52分発行